

「完全地産」製品 開発の挑戦紹介

伊那の業者などがシンポ

伊那市の中小製造業者などでつくる「製造業」当地お土産プロジェクトチームと伊那商工会議所は、「完全地産」の製品開発に取り組む同チームの活動を発信しようと、シンポジウムを伊那市でこのほど開いた。写真。地域を元気にするものづくりがテーマの講演やパネル討論などがあり、約50人が聞いた。



コンサルティング会社タウインチ・ブレインズ社長の下川真季さん(57)＝東京＝が講演し、日本では大手を中心に企業が事業化できていない技術が7割を超えると説明。山形県内のゴルフのパターのメーカーや化粧筆などで知られる広島県内の会社などの中小企業を挙げ、世界から注目される「隠れたチャンピオン」として紹介した。

同チームは、回すと花びらが開く「サクラコマ」や伊那市のキャラクター「イーナちゃん」のプラスチックモデルを開発した。代表で設計会社スワニー社長の橋爪良博さん(39)はパネル討論で、「これまで作って終わりだったが、今は売らないといけない」と販路開拓を課題に挙げた。下川さんは「理屈を超えたわくわく感や(製品が)欲しいと思わせるストーリーをつくることが大事」とした。